

## 第36回建設業経理士検定試験 1級 原価計算

〔第1問〕 解答にあたっては、各問とも指定した字数以内（句読点を含む）で記入すること。

問1

建設業での労務費はかなり限定的で特徴的である。直接工事に従事する生産労働者に対して支払われる賃金あるいは給料手当等を労務費として扱い、技術関係者や現場管理者等に支払われる給料手当等は、本来は労務費であるが、建設業では人件費として工事経費に算入される。なお、発注形態は外注費であるが、実質的に工事現場での労務作業とほぼ同等の内容をもつ場合には、これを外注費から除外し、労務に含めて記載することができる。

問2

個別原価計算は、1つの生産指図書に指示した生産数量あるいは生産サービス量を原価集計単位としている。一方、総合原価計算は、一定期間における同一種生産物あるいは同一種サービスの生産量を原価集計単位としている。生産活動が受注個別生産型の企業には個別原価計算が、見込大量生産型の企業には総合原価計算が適している。しかし、この対応は絶対的なものではない。例えば受注生産企業であっても、個々の受注生産の規模が小さく、1口の受注量が比較的多量であるような場合には、総合原価計算を採用することもある。また、見込生産企業であっても、自家用建物や試験研究用製品の製造の場合には、個別原価計算の手続を採用することになる。

〔第2問〕

記号 (ア～ナ)

1	2	3	4	5	6	7	8
タ	セ	エ	チ	ナ	イ	コ	ス

〔第3問〕

問1

ブルドーザの取得価額

26,640,000

円

問2

T工事現場への当月配賦額

527,990

円

問3

当期の損料差異

16,190

円

記号 (AまたはB)

B

〔第4問〕

問1

(1)

3,200,000

円

(2)

3,600,000

円

(3)

9,600,000

円

(4)

28,800,000

円

問2

6,600,000

円

〔第5問〕

問1

完成工事原価報告書	
自	20×4年9月1日
至	20×4年9月30日
X建設工業株式会社	
	(単位:円)
I. 材料費	1,669,400
II. 労務費	1,228,700
(うち労務外注費	427,000 )
III. 外注費	397,900
IV. 経 費	756,650
(うち人件費	455,250 )
完成工事原価	4,052,650

問2

1,475,550 円

問3

- ① 重機械部門費予算差異 13,500 円 記号 (AまたはB)  A
- ② 重機械部門費操業度差異 10,300 円 記号 ( 同 上 )  B